

## 汽水域研究会 NEWS LETTER

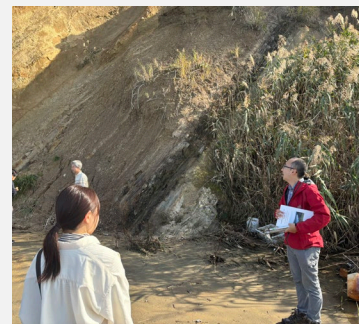
## 第16回秋田大会開催報告

## 汽水域研究会第16回秋田大会開催報告



一ノ目潟 撮影:金相暉

2024年10月26日(土)・27日(日)に秋田で開催された「汽水域研究会秋田大会2024年(第16回)」は、多くの研究者が集まり、活気あふれる2日間となりました。今年度の大会は、湖沼や汽水域の生態系と物質循環をテーマに実施されました。初日は、八郎潟や男鹿半島を巡るエクスカーションが行われました。干拓された八郎潟および八郎湖において、長年にわたり八郎湖の研究を行ってこられた秋田県立大学生物資源科学部の岡野邦宏准教授から、博物館で干拓の歴史と八郎潟の紹介や最新の研究について現場でお話を頂きました。その後、数十万年前の汽水域の地層が確認できる安田海岸に向かいました。安田海岸では、汽水域に特徴的な堆積構造や化石を観察し、参加者はその重要性について理解を深めました。その後、八望台からは男鹿目潟火山群を眺望し、一ノ目潟での観測と年縞の研究についても紹介しました。エクスカーション後には、懇親会が行われ、秋田の美味しい郷土料理や海と山の幸を楽しみました。2日目は秋田大学鉱業博物館でシンポジウム「秋田県の湖沼と生態系・物質循環」が開催されました。秋田大学と秋田県立大学の先生方からは、秋田の湖沼や生物に関する貴重な知見が提供され、参加者は熱心に耳を傾けました。シンポジウムの後にはポスターセッションが行われ、学生や研究者たちによる活発な議論が交わされました。また、博物館では秋田県内外から集められた鉱物試料を展示し、参加者はその収集された膨大な資料に興味津々でした。大会の成功には、秋田大学安藤卓人助教をはじめとする関係者の多大なご尽力がありました。大会を支援・協力していただいた皆様には、深く感謝申し上げます。



秋田大会の様子(左から:八郎潟博物館と干拓地説明,安田海岸,秋田大学鉱業博物館) 撮影:金相暉

汽水域合同研究会2024開催報告

汽水域研究会第14回例会（汽水域合同研究会2025）開催報告

汽水域研究会の第14回例会と島根大学研究・学術情報本部エスチュアリー研究センターの第32回汽水域研究発表会の合同研究発表会が、2025年1月11日（土）から12日（日）の二日間、島根大学にて開催されました。今年もハイブリッド形式とし、延べ221名（1日目：118名、2日目：103名）の方々にご参加いただきました。

今回の合同研究発表会では、常設セッションとして「水圏生態研究」「環境変動解析」「流動解析」などが設けられ、さまざまな研究発表が行われました。また、スペシャルセッションとして「エスチュアリーにおける炭素の貯蔵と隔離」が開催され、エスチュアリー環境における環境保全と気候変動対策に向けた議論が深まりました。全体では、42件の一般講演が発表され、活発な意見交換が行われました。また、今年も引き続き、高専生・高校生とジュニアドクター育成塾（小学生）研究発表が8件もありました。これらの発表は、大学レベルの研究に匹敵する内容もあり、参加者から高い評価を受けました。特に、若い世代が汽水域の環境問題に真剣に取り組む姿勢を示しており、未来の汽水域研究者にとって素晴らしい機会となり、今後の研究活動への期待を高めました。



左からスペシャルセッションの趣旨説明、ジュニアドクター育成塾の小学生、皆美が丘女子高の生徒による発表の様子

学生賞報告

汽水域研究会第14回例会 学生賞授与

汽水域研究会では優秀な若手人材の育成と学生の研究意欲向上を目的として、「汽水域研究会会長賞」と「エスチュアリー研究センター長賞」を優秀な発表を行った学生に授与しています。第14回例会においては、以下のとおり受賞者が決定しされ、2025年3月18日にエスチュアリー研究センター長室にて授与式を行いました。今回「汽水域研究会会長賞」を受賞したのは、島根大学生物資源科学部の洲崎大さんと島根大学総合理工学部の田邊皓基さんの2名、「エスチュアリー研究センター長賞」を受賞したのは、島根大学生物資源科学部の松下彩風さん、島根大学大学院自然科学研究科の大植和さんの2名でした。

一方、学生賞は、ジュニアドクター育成塾において、益川誠一さん・永島陽海さん・足立望さんの3名でありました。また、高校生研究において米子東高等学校の井上智樹さん、高専生研究において米子高専物質工学科の仲西美月さんがそれぞれ受賞されました。受賞されたみなさま、おめでとうございます！



記念撮影（左から益川さん、足立さん、永島さん、井上さん、中西さん）写真のご提供ありがとうございました。

汽水域研究会会長賞

洲寄 大さん

島根大学 生物資源科学部

「放散虫類ホシツドイ目(Collodaria)の系統関係の解明」

(洲寄 大・下出信次・大場裕一・林 昌平・金 相暉・仲村康秀) 得点: 21.1点

「仲村先生たちの指導と協力に感謝します。今後は大学院へ進み研究を続けていきます。」

田邊 皓基さん

島根大学 総合理工学部

「宍道湖産ヤマトシジミ貝殻の殻皮剥離現象の解析」

(田邊皓基・宮崎英敏・管原庄吾・山口啓子・平塚純一) 得点: 20.1点

「関係者の指導のおかげで荣誉ある賞を頂き感謝します。このスキルを持って社会に貢献していきたいと思いません。」

エスチュアリー研究センター長賞

松下 彩風さん

島根大学 生物資源科学部

「スズキにおける成長に伴う食性変化」

(松下彩風・山口啓子・中村幹雄) 得点: 20.4点

「一年間研究を続けたことにより、知らなかった宍道湖の現状を知ることができました。就職後も宍道湖を思い出して頑張ります。」

大植 和さん

島根大学大学院 自然科学研究科

「貝形虫化石群集解析に基づく前・中期完新世の出雲平野中央部の古環境変化」

(大植 和・入月俊明・中島 啓・堀田源内・瀬戸浩二・香月興太・齋藤文紀・中西利典)

得点: 20.2点

「入月研究室に配属されてから、先輩方の発表会に挑む姿を見ました。この光栄な賞を受賞できたことを自信にして社会に羽ばたいていきます。」

※学生賞対象発表者の平均点は18.7/25点満点でした

学生賞 高校生, 高専生

井上 智樹さん

米子東高等学校

「身近な地域のプラスチック汚染」

「今回の発表は、これまでのプラスチック研究を総括する良い機会となりました。今後は、倉田研究室の皆様のご指導のもと、汽水域におけるプラスチック汚染の実態について、さらに研究を深めていきたいと考えております。」

仲西 美月さん

米子高専物質工学科

「散水ろ床法およびファインバブルを用いた酸素供給による米子水鳥公園の環境浄化効果の検証」

(仲西美月・藤井貴敏・礒山美華・伊達勇介・日野英壺・濱田竜生・青木 薫・石谷朱理・安田 優)

「この度は表彰いただき、ありがとうございました。発表では伝えたいことを伝えられたと思います。この一年、調査・実験を通じて効率化と正確性の大切さを学びました。次年度からは企業で働き、この経験を活かしていきます。」

学生賞 ジュニアドクター育成塾

益川 誠一さん

津市立上野小学

「ハクセンシオマネキの視力検査2 (視力に影響を与える要因について)」

「この度は名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。研究と野球を両立させ、今後も精進していきますので、引き続きご指導ご支援のほどよろしくお願いいたします。」

永島 陽海さん

しまだいジュニアドクター育成塾

「行動変化で評価した汽水産と淡水産ミナミメダカの塩分順応」

「今回の発表は、人が多くて2番目で緊張しましたが、自分の調べたことが発表できて良い経験でした。」

足立 望さん

しまだいジュニアドクター育成塾

「比津川はなぜ氾濫する？」

「はじめてのジュニアドクター以外のところで発表をして緊張しましたが、新しい発見がたくさんあって楽しかったです。」



記念撮影(左から矢島エスチュアリー研究センター長, 仲村助教, 洲寄さん, 入月教授, 大植さん, 田邊さん, 宮崎教授, 山口汽水域研究会会長, 松下さん) 撮影: 船来 桂子

## 関連学会のご案内

### ◆ 日本地球惑星科学連合2025年大会

会期：2025年5月25日～30日 6日間  
形式：ハイブリッド（現地+オンライン）  
会場：幕張メッセ（千葉県）  
詳細：<https://www.jpogu.org/>

### ◆ 北太平洋海洋科学機関2025大会

会期：2025年11月7日～11月16日 10日間  
形式：対面  
場所（会場）：横浜  
詳細：<https://meetings.pices.int/meetings>

## エッセイ

## 汽水域研究とAIの活用

近年、水環境研究における人工知能（AI）の活用は急速に進展しており、特に水域環境のモニタリングや管理で効果が顕著です。特に汽水域の研究では、AIを活用することで、従来の手法では難しかった複雑なデータ解析が可能となり、新たな環境保全や生態系管理のアプローチが生まれています。汽水域は淡水と海水が混ざり合う場所で、生物多様性が豊かである一方、環境変動や人為的影響を受けやすい場所でもあります。AIを導入することで、温度、塩分濃度、酸素量などの複雑なデータを効率的に処理し、リアルタイムで環境変動を追跡できるようになります。機械学習アルゴリズムを使った予測モデルや、深層学習を利用した水質・生物分布の解析により、環境管理の精度が向上します。さらに、ドローンやロボットを用いた自動測定システムが現場でのデータ収集と解析を効率化し、AIが結果を即座に評価することで迅速な意思決定が可能になります。今後、汽水域の研究におけるAIの活用はさらに重要となり、環境保全や生物多様性の維持に新たな可能性を広げると期待されます。AI技術を駆使することで、環境への理解が深まり、持続可能な未来を築くための強力なツールとなることが期待されます。

上記の文章をご覧になられて、どう感じたのでしょうか。このニュースレターを読んでいる皆さんは、汽水域に関心をお持ちの方が多くいると思いますが、何か違和感を感じたのでしょうか。実は、上記の文章は、今話題のChatGPT（無料版）を活用して作成したものです。質問として、「汽水域研究とAIの活用についてA4半分程度でエッセイを書いて」を入力しました。また、水の写真もGrokを用いて作成したものです。私がやったのは唯々何回かトライをして適切なものを選んだだけでした。もちろん、内容には専門家によるさらなる確認や修正が必要だと感じていますが、それでもAI技術は著しく進化しており、現時点で非常に実用的なツールとなっていると実感しました。これに対して、研究者として今後どのようにAIを活用すべきかについて議論が必要だと感じます。また、AIを使いこなすためには、正しい情報を選択するための教育が重要だとも思いました。私たちは単に利用される側ではなく、AIを使いこなす側になりたいですね。



アオコ調査中のヒューマノイド

（情報幹事 金相擘）

## 会員数（2025年3月31日）

正会員：79名（±0）、賛助会員：5名（±0）、  
学生会員：42名（±0）、計：126名（±0）  
#カッコ内は2024年10月1日からの増減を示す

## 編集後記

今回はニュースレター第30号となります。記念すべき号となりますので、皆様のご協力を賜りたく存じます。ご意見いただけますと幸いです。何卒、よろしくお願い申し上げます。（金）

汽水域研究会ニュースレター第27号 2025年3月31日発行 編集・発行：汽水域研究会

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060島根大学エスチュアリー研究センター内 汽水域研究会事務局

office.rgbwa@gmail.com 0852-32-6450 (phone&fax)